

学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育

★ 小学生のマラソン記録会に中学生も参加し交流 ★

四中校区では、児童生徒がともに活動し交流を図る活動を行っています。美川小学校が年2回実施する記録会では、中学生全員が伴走者として参加し小学生を励ますなどの交流活動を行いました。半数以上の児童が練習の時よりも記録が伸びました。そして、中学生に応援してもらってうれしかった、楽しかったとの感想をもち、感謝のメッセージを作成し、中学校へ送りました。このような、児童生徒の交流を続けることで、休憩時間などに中学生が小学生と一緒に遊ぶ姿も見られるようになっていきます。小学生にとっては、身近にモデルとなる中学生がいることで、進学に際しての不安感の減少にもつながっています。この他、幼小中合同の運動会や稲作体験、しめ縄づくり等、幼児、児童生徒がともに活動する場も設定しています。このような活動を通して、児童生徒は自分を支えてくれる人がいることに安心感や喜びを感じ、地域に対して愛着をもったり、自分の居場所を感じたりする児童生徒が増えてきています。



＜生徒会長からの励ましのことば＞

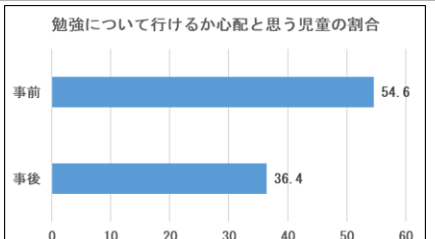
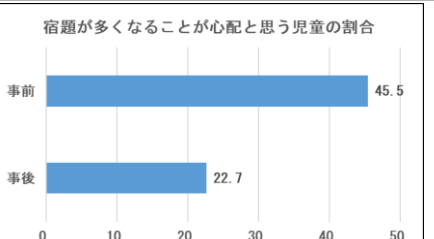


＜中学生の伴走による励まし＞

学校不適應を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

★ 中学校1年生のプレゼンテーションで中学校生活への不安解消 ★

旭中校区では、中学校1年生が小学校を訪問して6年生と交流する活動を毎年続けています。中学生は学校生活の様子について、6年生が不安に感じそうなことや自分たちの経験を踏まえ、分かりやすいようにプレゼンテーション資料を作成して小学生に伝えました。その後、小グループに分かれて質問について答えたり、中学校の教科書を使って学習についてアドバイスをしたりしました。実施前のアンケートで心配だと思う割合が多かった「宿題が多くなるのが心配」「勉強について行けるかどうか心配」について、実施後は割合が下がっていました。また、実施後の感想からは、「中学校1年生の人に教えてもらって安心した。」「中学校へ行くのが楽しみになった。」などの内容が多くみられ、不安の解消につながったことがうかがえました。中学生にとっても先輩としての自覚が生まれるよい機会になっています。



★ 教職員の連携を工夫し、児童生徒理解を深める ★

弥栄中校区では、合同職員会議や合同研修会を行い、小中学校の教職員の連携を深めてきました。今年度は感染症予防のため、毎月の管理職連絡会や少人数による部会において、それぞれの学校状況等について共通理解をしてきました。この連絡会において中学校入学前に行う小学校6年生と中学校1年生の交流会の在り方も見直しました。その結果、事前に小学校6年生とその保護者へのアンケートを行い、不安に思っていることに中学生が答える場を交流会の中に設けることで、中学校入学への不安解消を図りました。

小中学校の連携した取組を通して、小学校から中学校へのつなぎを円滑に行うことができます。実際に交流し、体験を通すことにより不安は解消されていきます。したがって、小中学生の交流の場を増やしていく工夫も必要となります。また、児童生徒間の交流だけではなく、小中学校の教職員が連携の場を工夫しながら児童生徒理解を深めていくことも大切な取組となります。

令和2年度を振り返って

紙にある4つの視点(①各中学校区で一体となって生活習慣づくり、②学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成、③学校不適應を考慮し、変化に対応できる子どもの育成、④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもを育てます)の実践や、浜田市教育委員会が実施する事業、各中学校区での取組を通して、今年度の目標値を、○は目標値を上回っていることを表しています。

①各中学校区で一体となった生活習慣づくり
 「普段(月～金曜日)、1日あたり2時間以上テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする子どもの割合」の減少。
 令和2年度値 小学校6年: 32.5% 中学校3年: 29.9%
 目標値(令和3年度) 小学校6年: 30.0% 中学校3年: 27.0%

「普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上家庭学習をする子どもの割合」の増加。
 令和2年度値 ○小学校6年: 57.6% ◎中学校3年: 66.2%
 目標値(令和3年度) 小学校6年: 64.0% 中学校3年: 65.0%

★メディア接触時間については、年々増加しており、危惧しています。特に小学校においては、昨年度より約10%の増加です。これに伴って、小学校の家庭学習時間も昨年度より減少しています。中学校の家庭学習時間は、過去2年連続して目標値を上回ったことから55.0%から65.0%へ目標値を引き上げました。メディア接触時間、家庭学習時間共に自分で時間をコントロールしていく力を育てていく必要があります。この力を育てていくためには家庭の協力が必要です。家庭で相談をしながら「ルール作りやルールの確認」をお願いします。

③学校不適應を考慮し、変化に対応できる子どもの育成
 「自分には良いところがあると思う子どもの割合」の増加。
 令和2年度値 ◎小学校6年: 72.1% ◎中学校3年: 77.5%
 目標値(令和3年度) 小学校6年: 86.0% 中学校3年: 77.0%

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う子どもの割合」の増加。
 令和2年度値 ◎小学校6年: 95.8% ◎中学校3年: 96.1%
 目標値(令和3年度) 小学校6年: 95.0% 中学校3年: 98.0%

☆中学校で「自分には良いところがあると思う」生徒が増加していることは嬉しいことです。今後も、全ての児童生徒の「自尊感情」を高める取組を行っていきます。また、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」児童生徒の割合が高いことも嬉しいことです。

④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成
 「総合的な学習の時間で学習したことが普通の生活に役立つと思う子どもの割合」の増加。
 令和2年度値 ○小学校6年: 89.5% ○中学校3年: 88.3%
 目標値(令和3年度) 小学校6年: 90.0% 中学校3年: 90.0%

「総合的な学習の時間において、自分で調べ学習に取り組んでいる子どもの割合」の増加。
 令和元年度値 ○小学校6年: 75.6% ◎中学校3年: 86.5%
 目標値(令和3年度) 小学校6年: 80.0% 中学校3年: 80.0%

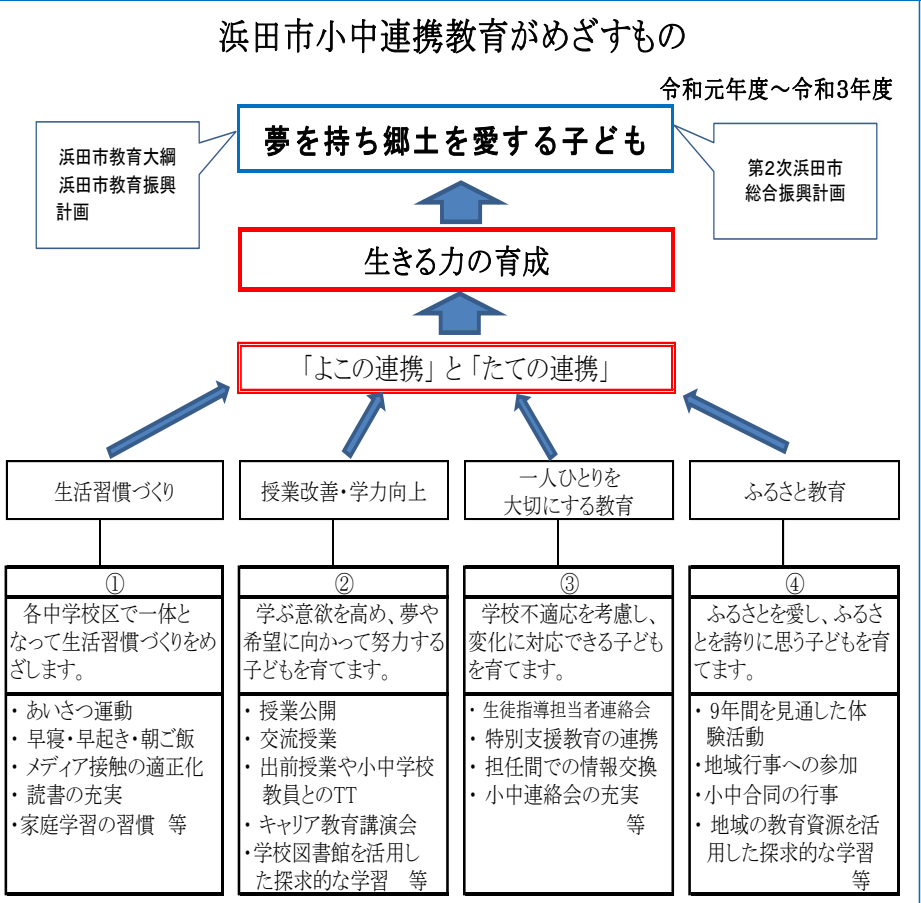
☆「総合的な学習の時間」を中心とした取組ですが、2つの項目とも、スタート値を上回っており、児童生徒の意識が高まっていると捉えられます。過去2年間目標値を達成したことから、目標値を「普通の生活に役に立つ」については中学校を80%→90%へ、「自分で調べ学習に取り組んでいる」については小学校を65.0%→80%、中学校を60%→80%に上方修正しました。今後も、浜田をふるさととして誇りに思う児童生徒を育成していきます。

令和2年度

浜田市小中連携教育実践の概要

《浜田市小中連携教育基本方針》 めざす子ども像(浜田市教育振興計画)

夢を持ち郷土を愛する子ども



「浜田市小中連携教育」は、平成21年度に「浜田市小中一貫教育基本方針」を示し、平成22年度から中学校区ごとの取組が始まりました。子どもたちの発達段階におけるそれぞれの課題に対応するために、幼・小・中一貫した「たての連携」を重視し、前浜田市教育振興計画に掲げられた3つの子ども像「きまりを守り、生活リズムを正しくしたくましく生きぬく子」「感性豊かで他を思いやり、人とのつながりを大切に子」「夢や希望にあふれ、学ぶ意欲をもち、ふるさとを愛する子」の具現化に向けて、中学校区単位で「よこの連携」を大切にしながら、それぞれの実態を踏まえ、特色を活かしながら具体的に育てたい指導目標や指導内容を定めて取り組んできました。

平成27年度に第2次浜田市総合振興計画及び浜田市教育大綱が策定され、その理念を実現するために新たな浜田市教育振興計画が策定されました。この機会に、それまでの名称「小中一貫教育」を、「浜田市小中連携教育」とし、浜田市教育振興計画の基本理念に基づき、実践を行うこととしました。今年度は、新たなスパン(平成28年度～令和3年度)の後期(令和元年度～令和3年度)の2年目となります。

コロナ禍にあっても、各中学校区において様々な取組が行われました。保護者の皆様にも、「浜田市小中連携教育」の各中学校区の取組の様子をご覧いただき、ご理解いただければと考えています。今後とも、ご支援・ご協力をお願いします。